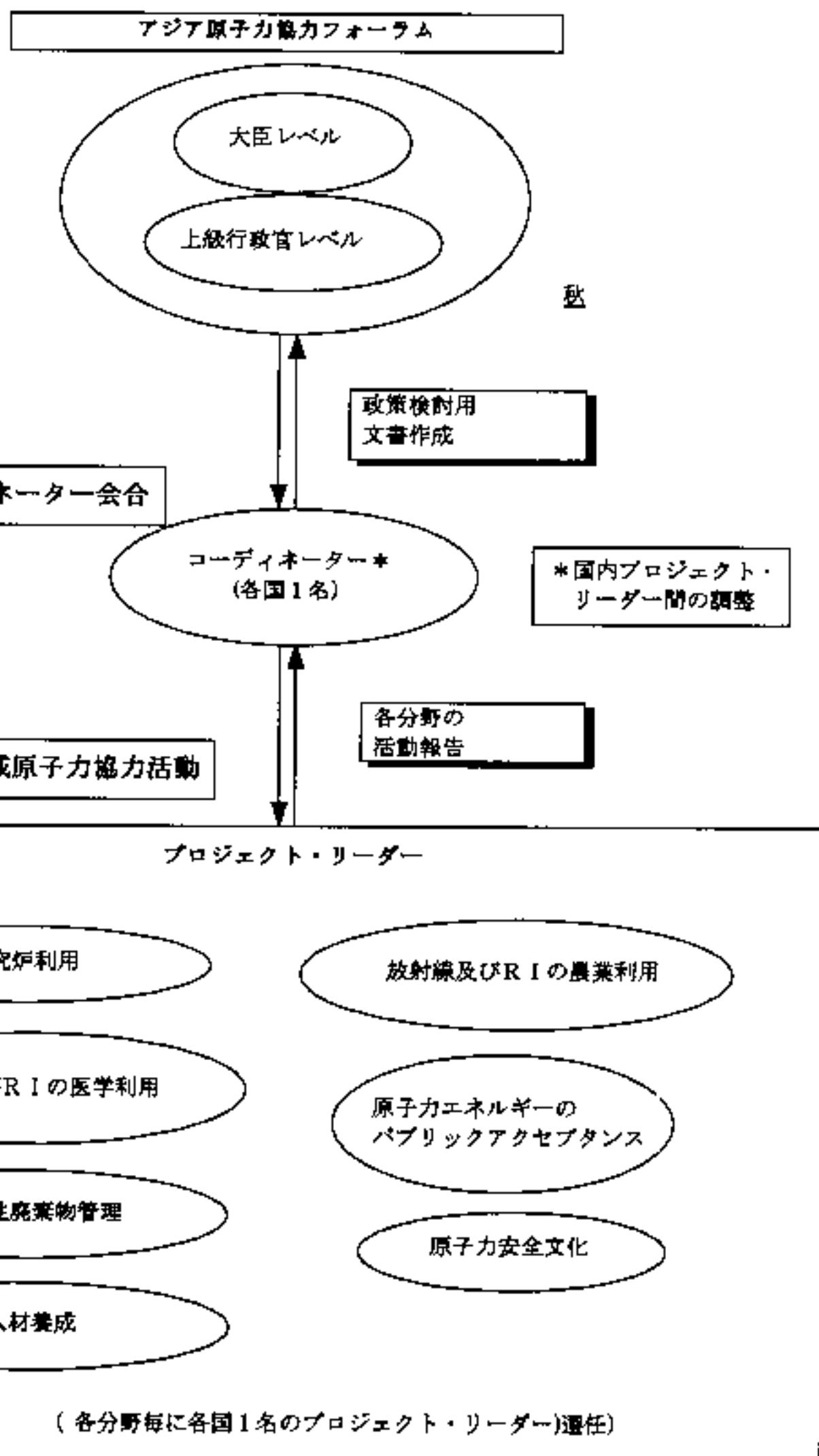


平成 11 年度アジア地域原子力協力活動
調査結果について（概要）

平成 12 年 6 月 27 日

科学技術庁 原子力局

アジア原子力協力フォーラム体制



FNCA活動スケジュール---平成11年度実績と平成12年度予定

	平成11年度(1999年)												平成12年度		備 考		
	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3							
1. フォーラム&コーディネーター体制整備	▽コーディネーターとプロジェクトリーダーの登録(8~10月)												▽第1回コーディネーター会議(東京、3/7-9)		▽第1回フォーラム(タイ11/10-15) ▽日・タイ打合せ(タイ) ▽第2回コーディネーター会議(東京)		
2. 分野別地域協力プロジェクト ①研究炉利用 ②RI・放射線の農業利用 ③RI・放射線の医学利用 ④パブリック・アセプタンス ⑤放射性廃棄物管理 ⑥原子力安全文化※ ⑦人材養成	▽安全文化ワークショップ(マレーシア・5/16-21) ▽研究炉ワークショップ(日本・11/29-12/1) ▽農業利用セミナー(インドネシア・1/24-28) ▽医学利用セミナー(中国・11/30~12/1) ▽PAセミナー&シンポジウム(日本・10/19-21) ▽廃棄物管理セミナー(フィリピン・11/7-13) ▽人材養成セミナー(日本・11/25-26)												▽韓国 ▽ベトナム ▽インドネシア ▽ソウル(10月 PBNCと連携) ▽オーストラリア(12月11日~) ▽中国(9月頃) ▽日本		※オーストラリアサポート		
3. コーディネーター・オフィス ①国内方針検討・連絡調整 ②海外との連絡調整 ③アジア原子力協力ネットワーク・相互情報交換(AsiaNNet) ・ニュースレター ・ホームページ ④海外フェロー受入れ	▽コーディネーター・オフィス設立(7月)※ アジア地域協力企画委員会(地域協力方策及び分野別プロジェクト活動計画検討)等 海外との連絡調整(セミナー・ワークショップ、コーディネーター会議等) 相互情報交換(事故情報等)と日本からの情報発信(AIJ、STA Today他) ▽ニュースレター発行(日本) ▽ニュースレター発行(日本) ▽開設 ▽情報収集& 他とのリンク 海外フェロー受入れ(2名)												▽(日本) ▽(タイ) 海外フェロー受入れ				

*各セミナー／ワークショップにおいて、3カ年間の作業計画とプロジェクトのレビューの進め方が討議される。

*次の年には、セミナー／ワークショップの名称は「ワークショップ」に統一される。

1. アジア地域原子力協力「研究炉利用」

「第8回ワークショップ」

①中性子散乱、②R I製造、③研究炉の運転・保守(安全確保)の3つがテーマ。

開催期間：1999年11月29日(月)～12月2日(木)

開催地：日本、水戸市

*中性子散乱サブワークショップ)

テーマ：「小角中性子散乱実験」

開催期間：1999年11月25日(木)～27日(土)

開催地：日本原子力研究所東海研究所

2. アジア地域原子力協力「ラジオアイソトープ・放射線の農業利用」

「突然変異育種手法セミナー」

開催期間：2000年1月24日(月)～28日(金)

開催地：インドネシア、ジャカルタ市

テーマ：高品質変異体の選抜法

*植物突然変異手法データベース

・植物突然変異育種の更新

・タイのガンマー・ルームを地域で共同利用する共同研究が討議された。

・共同ミュータント・ストック・レポジトリ（突然変異体の共同保管）の推進

・データベースの利用拡大を図るための、概要紹介パンフレットの出版準備を行った。

3. アジア地域原子力協力「ラジオアイソトープ・放射線の医学利用」

「第7回放射線治療セミナー」

開催期間：1999年11月30日(火)～12月3日(金)

開催地：中国、蘇州市

テーマ：「子宮頸ガン放射線治療の標準治療手順書(プロトコル)使用の効果」

*データ登録

合意されたプロトコルに則り子宮頸がんの治療データが日本の放射線医学総合研究所に登録されている。そこでは対象患者のフォローアップに重点を置いている。

そのフォローアップ・データを解析した結果、データ測定や処理上の技術的問題点が浮かび上がったことから、注意点を明確化して「プロトコルの最終取りまとめ」のための討議を行った。

4. アジア地域原子力協力「原子力のパブリック・アクセプタンス(PA)」

「第9回PAセミナー・PAコンタクトパーソン会合」

開催期間：1999年10月19日(火)～20日(水)

開催地：日本、東京

*シンポジウム「アジアの人々の暮らしと原子力」の併催(10月21日、東京)

著名な発表者・コメンテーターとパネリストを招請した。

* 「アジアの人々の暮らし」に関する合同意識調査

ジャーナリストをまじえて回答結果を分析。

* AsiaNNet

ファクシミリによる情報交換ネットワーク(AsiaNNet)の継続と、ニュースレターや電子メール、インターネットのホームページによる情報のさらなる交換が、合意された。AsiaNNetは、FNCA活動全般をカバーすることも合意された。

5. アジア地域原子力協力「放射性廃棄物管理」

「放射性廃棄物管理セミナー」

開催期間：1999年11月10日(水)～13日(金)(含サブミーティング)

開催地：フィリピン、マニラ市

テーマ：各参加国での状況を踏まえた、放射性廃棄物管理分野における技術協力活動を促進する方策

* サブ・ミーティング

開催期間：1999年11月9日(火)

開催地：フィリピン、マニラ市

トピックス：1) 使用済密封線源の管理
2) クリアランス・レベルの策定と検証

* ニュースレターの発行

6. アジア地域原子力協力「原子力安全文化」

「原子力安全文化ワークショップ」

開催期間：1999年5月17日(月)～20日(木)

開催地：マレーシア、クアラルンプール市

テーマ：1) 研究炉の運転と管理への安全文化の適用
2) 研究炉の安全活動指標
3) IAEAの原子力安全条約(に基づく各国の報告の)ピアレビューの結果

7. アジア地域原子力協力「人材養成セミナー」

開催期間：1999年11月25日(木)～26日(金)

開催地：日本、東京

主催機関：科学技術庁

テーマ：原子力開発利用に係る人材養成の現状とニーズ

以上

2000年3月に開催された「第1回FNCAコーディネーター会合」で参加国(オーストラリア、中国、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナムの9カ国)は、2001年3月に東京で開催される予定の「第2回コーディネーター会合」までの間に、7分野、即ち、1)研究炉利用、2)放射性同位元素(RI)・放射線の農業利用、3)RI・放射線の医学利用、4)パブリック・アクセプタンス(PA)、5)放射性廃棄物管理、6)原子力安全文化(オーストラリア主催)、7)人材養成、の各分野の協力活動が主としてワークショップ開催という形で、下記の通り実施することに合意した。

1. FNCA「FY2000 研究炉利用ワークショップ」

開催期間：2000年11月20日～24日

開催地：韓国

主催機関：科学技術庁

協力機関：日本原子力研究所、(社)日本原子力産業会議他

2. FNCA「FY2000 放射線による突然変異育種手法ワークショップ」

開催期間：2000年10月9日～13日

開催地：ベトナム・ハノイ市

主催機関：科学技術庁、ベトナム原子力委員会

協力機関：ベトナム農業遺伝子研究所、農業生物資源研究所、日本原子力研究所他

3. FNCA「FY2000 放射線治療ワークショップ」

開催期間：未定

開催地：インドネシア・ジョグジャカルタ市

主催機関：科学技術庁、インドネシア原子力庁

協力機関：放射線医学総合研究所、日本原子力産業会議他

4. FNCA「FY2000 PAワークショップ」

開催期間：2000年10月31日～11月3日

開催地：韓国・ソウル市

主催機関：科学技術庁、韓国科学技術省

協力機関：韓国原子力研究所、日本原子力産業会議他

5. FNCA「FY2000 放射性廃棄物管理ワークショップ」

開催期間：2000年12月11日～15日(含サブミーティング)

開催地：オーストラリア・

主催機関：科学技術庁、オーストラリア原子力科学技術機構(ANSTO)

協力機関：日本原子力産業会議他

6. FNCA「FY2000 原子力安全文化ワークショップ」

開催期間：2000年9月6日～9日

開催地：中国・上海市

主催機関：オーストラリア原子力科学技術機構(ANSTO)、中国核工業集团公司(CNNC)

協力機関：日本原子力産業会議他

7. FNCA「FY2000 人材養成ワークショップ」

開催期間：2000年11月27日～30日

開催地：日本・東海村

主催機関：科学技術庁

実施機関：日本原子力研究所

協力機関：(社)日本原子力産業会議他

以上

アジア原子力協力フォーラム (FNCA)

第1回コーディネーター会合

平成12年3月7、8日 東京

プレスリリース(仮 訳)

第1回コーディネーター会合は、1999年3月に東京で開催された第10回アジア地域原子力協力国際会議(10th ICNCA)の合意に基づき企画された。同国際会議では、地域協力活動をよりシステマチックに運営するため、各国から1名のコーディネーターおよび7つの地域協力活動分野につきそれぞれ1名のプロジェクト・リーダーを選任することが参加9カ国の間で合意された。これにより1999年4月、「アジア原子力協力フォーラム(FNCA)」という新たな枠組が発足した。

1. アジア原子力協力フォーラム(FNCA)の第1回コーディネーター会合は、2000年3月7、8の両日、東京で開催された。
同会合には、オーストラリア、中国、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナムの9カ国およびオブザーバーとして国際原子力機関(IAEA)が参加した。
2. 2日間にわたる審議を経て、第1回コーディネーター会合の参加者は、以下の項目について合意した：
 - (A) これまで10年間の地域協力活動は、原子力分野の基盤を開発する上できわめて重要であり、これらの原子力科学・技術分野における協力活動がFNCA参加諸国に社会経済的な利益をもたらしたことは特記すべきである。
 - (B) 新たな枠組みである「アジア原子力協力フォーラム (FNCA)」体制の導入は、相互理解に基づく相互協力活動でのパートナーシップというこれまでのICNCAの成果を受け継ぎ、9カ国間の地域協力活動をより効果的かつ効率的に促進することを目標とするものである。
 - (C) 現在進められているプロジェクトの成果を最大限に享受するため、さまざまな地域協力活動の進め方およびあり方を検討すべきであることが合意された。
 - (D) 参加各国ではFNCA体制下での地域協力活動に対する国内的な支援体制を確立することが重要である。
3. コーディネーター会合では、以下の7つの地域協力分野の活動の進展状況および3ヵ年計画についてレビューが行われ、参加者の同意がなされた：
 - ・ 研究炉利用
 - ・ 農業へのラジオアイソトープ・放射線の利用
 - ・ 医学へのラジオアイソトープ・放射線の利用

- ・ 原子力のパブリック・アクセプタンス
- ・ 放射性廃棄物管理
- ・ 原子力安全文化
- ・ 人材養成

来年のコーディネーター会合では、各プロジェクトの目的と目標をさらに特定したドキュメントを準備することが合意された。

また、2000年度のワークショップ開催地についても、次のとおり合意がなされた：

- ・ 研究炉利用：韓国
- ・ 農業へのラジオアイソトープ・放射線の利用：ベトナム
- ・ 医学へのラジオアイソトープ・放射線の利用：インドネシア
- ・ 原子力のパブリック・アクセプタンス：韓国
- ・ 放射性廃棄物管理：オーストラリア
- ・ 原子力安全文化：中国
- ・ 人材養成：日本

4. 次の合意がなされた：

- ・ 「アジア原子力協力フォーラム (FNCA)」という名称は、地域協力活動体制全体をさすとともに、大臣レベル会合(MM)と上級行政官レベル会合(SOM)からなる会議自体も示すものとする。各種の会合の機能の重複を避ける方法を検討する。
- ・ 「アジア地域原子力協力活動(RNCA)」という名称は、FNCA体制下で実施されている地域協力活動を示すものとする。

5. タイの代表より、タイ科学技術・環境省(MOSTE)および日本の原子力委員会の共催による第1回FNCAを開催する意志が確認された。第1回コーディネーター会合は、第2回FNCAの開催地として日本、また第3回の開催地として韓国を推薦した。

6. 原子力発電関連の活動をFNCA協力で考慮することへの関心を表明した参加国もあった。

7. 放射線・ラジオアイソトープ技術を安全に使うシステムの強化が討議された。今後、国際原子力機関(IAEA)、日本の科学技術庁(STA)、およびその他の国々のフェローシップ制度を含め、既存の人材交流制度をさらに効率的に活用することの必要性も討議された。

8. 「パブリック・アクセプタンス」という言葉が適切であるかが議論された。

9. タイの代表が、最近起こった使用済Co-60線源事故について説明し、この事故の報告を2000年のPAワークショップと放射性廃棄物管理ワークショップで行う提案が承認された。

10. 資源の利用の最適化のために、FNCA の活動と、IAEA の進めている RCA（アジア地域原子力協力協定）活動の連携緊密化を促進し、重複回避を図ることが、奨励された。

11. 第 1 回コーディネーター会合は以下の「目的に関する声明」を採択することに合意した。

「FNCA は、原子力技術の平和目的に限定したかつ安全な使用において、地域のパートナーシップを通して、社会経済の発展に貢献する」

12. 日本のコーディネーター・オフィスは、要請があれば FNCA 参加国のコーディネーターの便に応じる意志があることを表明した。

FNCA 参加国から原子力利用の企画・運営・管理に関わっている人材を、FNCA の枠組下での活動の発展と円滑な進展を図ることを目的に、日本原子力産業会議のアジア協力センターにフェローとして受け入れる新しい試みが始まった。その成果として、本年度はタイと韓国からのフェロー各 1 名を受け入れたことが紹介された。